

風水害への備え

減災マンガ 洪水ハザードマップ編



近年、全国各地で大雨の被害が相次いでいます。平成20年にはごく限られた範囲に、短時間に、極めて大量の雨が降る短時間強雨(いわゆるゲリラ豪雨)が頻発し、大きな被害が発生しました。また、台風、低気圧や前線、寒気の流れ込みによる竜巻等の突風による災害は日本のどこでも発生する可能性があります。

風水害は地形による影響を大きくうけるため、過去に風水害が発生したことのある地域に住んでいる場合は、必ずハザードマップを確認して、避難場所や避難経路などを把握しておきましょう。風水害は事前に予測可能なことも多いため、気象情報に注意して、早めに対策をとるようにしましょう。

集中豪雨はどのようなときに発生するの？

- 日本付近に前線が停滞しているとき
(特に梅雨期の終わり頃)
- 台風が日本へ近づいている時や
台風が上陸したとき
- 大気の不安定な状態が続き、
次々と雷雲が発生するとき

集中豪雨が起こるとどうなるの？

- 川の水位が急に増えたり、氾濫したりすることもあります
- 床下・床上浸水が起こることもあります
- 道路が冠水することもあります
- 排水溝や下水管で処理できない水が、地下街や地下室へ流れ込むこともあります
- 地盤がゆるみ、土石流やがけ崩れが発生することもあります

最新の情報を入手しましょう

防災気象情報

ラジオやテレビなどで最新の防災気象情報を入手し、早めの対策を行うことで、風水害による被害を減らすことができます。

台風が通過している最中や、雨が強く降っているときに、外の様子を確認しに外出することは控えましょう。水の状況は急変があるので、河川や用水路、田んぼの状況を確認しに行くことは非常に危険です。

	発表される状況・内容
注意報	災害が起こるおそれのあるとき 16種類(大雨、洪水、強風など)
警報	重大な災害が起こるおそれのあるとき 7種類(大雨、洪水、暴風など)
気象情報	警報・注意報に先立つ注意喚起や警報・注意報の補完など
台風情報	台風の実況(中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速(10分間平均)、最大瞬間風速、暴風域、強風域と予報(72時間先まで))
土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する

※気象庁ホームページの情報をもとに作成

土砂災害にも注意が必要です

集中豪雨や長雨などで地盤がゆるむと、土砂災害(土石流や地すべり、がけ崩れなど)が発生しやすくなります。自分の住む地域で土砂災害が発生する可能性がないか、自治体が作成しているハザードマップで確認しておきましょう。ハザードマップは自治体の配布物やホームページなどで確認できます。土砂災害に巻き込まれないようにするために、気象情報や各自治体から発表される土砂災害警戒情報に注意しましょう。また、土砂災害の前ぶれのような異変を感じた場合は、すぐに周りの人や自治体などに知らせ、安全な場所に避難しましょう。

避難についての情報

台風や集中豪雨などにより、災害が発生するおそれが高まったとき、市町村から、避難についての情報が発表されます。発表の方法は、ケーブルテレビやラジオ番組、ホームページ、携帯電話へのメール、防災無線など、自治体によってそれぞれ違うため、ハザードマップなどで確認しておきましょう。

区分	発表される状況・内容
避難準備情報	災害時要援護者等、特に避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況のとき
避難勧告	通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況のとき
避難指示	●前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況のとき ●堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況のとき ●人的被害の発生した状況のとき

※気象庁ホームページの情報をもとに作成

避難するときには

- 危険がせまる前に避難しましょう。
- 避難することを必ず誰かに伝えましょう。
- 必ずくつをはきましょう。サンダルや長靴はかえって危険なこともあります。
- 持ち物はリュックに入れるなど、いざというときに両手がつかえるようにしましょう。
- 水の中を歩くときには、側溝やマンホールなどにはまらないよう、長い棒で確認するなど、足元に十分注意しましょう。
- 強風のとき、水の深さがひざ上まであるときなどは、無理をして避難所へ行くよりも、2階など高いところにとどまる方が安全な場合もあります。

※千代田区「防災のてびき」を参考に作成

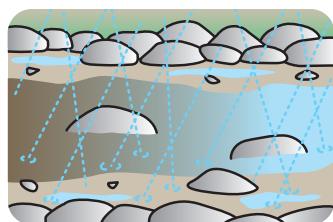


土砂災害の前ぶれ（前兆現象）として、どんなことが起きるの？

土石流の前兆現象



①川の流れがにぎり、流木が混じりはじめる



②雨は降り続いているのに川の水位が下がる

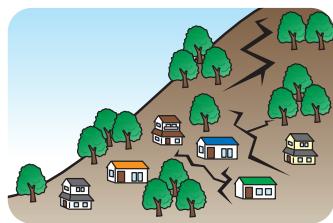


③山鳴りがする

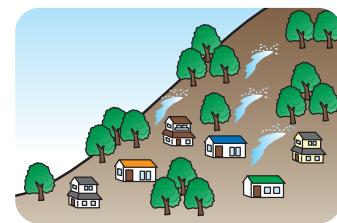
地すべりの前兆現象



①沢や井戸の水がにごる



②地割ができる



③斜面から水が噴き出す

がけ崩れの前兆現象



①がけから小石がパラパラと落ちてくる



②がけから水が湧き出している



③がけに割れ目が見える

チェックリスト（風水害）（該当するものにチェックを入れましょう）

情報収集

1. 洪水の時の避難場所と避難経路をハザードマップで確認している。
(地域によって洪水のハザードマップが配布されていないこともあります)
2. 停電しても気象情報を確認できるよう、電池式のラジオ等を準備している
3. 川遊びに行くときは、遊ぶ場所の上流の天気予報も確認している

自宅での備え

4. 台風などの強風で飛ばされないか、屋根瓦や雨どい等の固定状況を定期的に確認している
5. 停電に備え、懐中電灯はすぐに使えるよう、部屋ごとに置いている
6. 避難に備え、必要最低限の非常持ち出し品を決めている
7. 非常持ち出し品を入れるリュックを用意している